

Web 交流会「関係人口を創り出す」 開催内容

1. 日時：令和 5 年 11 月 27 日（月） 16：00～17：30
2. 場所：オンライン（Zoom）
3. 登壇者：

役割	所属	役職	氏名（敬称略）
パネリスト	NPO 法人 ezorock	代表理事	草野 竹史
パネリスト	道南サミット	副代表	赤井 義大
パネリスト	一般社団法人ドット道東	代表理事	中西 拓郎
パネリスト	やさいバス北海道協議会	事務局長	三浦 世子
ファシリテーター	公益財団法人はまなす財団	部長	小倉 龍生

4. 交流会の様子

ア NPO 法人 ezorock 代表理事 草野 竹史 氏

- NPO 法人 ezorock では、若者の社会参加に向けた仕組づくりに取り組んでいます。背景としては、ライジングサンロックフェスティバルのゴミ問題から始まり、毎年 200 人くらいのボランティアを集めて、ゴミ問題と向き合ってきました。そういった活動を通して、若者を集める力とコーディネートするノウハウを蓄積してきました。
- 現在は、未利用資源活用や空き家活用、国立公園の保全などの通年プロジェクトに、約 150 名のメンバーが企画運営から関わっています。これらの活動を通して、次世代の担い手である若者が社会課題に参加し、自らの人生を揺さぶるような機会を創り出しています。
- 最近は、小さな商いづくりを、地域の人と行っています。石狩市の浜益区の事例では、担い手不足で収穫しきれないさくらんぼがあるという課題に対して、収穫の手伝いや冷凍さくらんぼの商品開発など、一つの地域に長く関わるプロジェクトを行っています。
- 北海道の各地で、地域と信頼関係を作ってから事業展開をするやり方で活動しています。まんべんなく関わりつつも、関わる場所とはしつこく関わっていると、地域の課題が見えてきます。最近、ezorock の社会的な活動に対して、公務員の参画が増えてきています。貴重な人的リソースだと考えていま



すので、公務員の方が個人として参画できる機会を増やしていきたいと考えています。

イ 道南サミット 副代表 赤井 義大 氏

- 道南サミットは、「自分たちで未来をつくる道南」をビジョンとして、事業を行っています。具体的には、道南を知ってもらうイベント「道南フェスティバル」や、それぞれスキルをシェアし、お互いのことを知るための「道南サミットキャンプ」、道南の未来を様々なテーマで話し、研修会をする「道南の未来を考えよう」、道南の各地域のコーディネーターを育成する「道南地域コーディネーター育成事業」などです。
- 関係人口の文脈では、道南サミットとは別にワーケーションなどの事業を行っています。本事業では、滞在している方に、HPの構築などの地域の仕事を発注するなど、お客さんと受入側という関係だけでなく、ビジネスマッチングにもつながっています。
- 現在の課題は3つあり、収益化が難しいこと、成果が見えにくいこと、人員確保です。そのため、今後は、人材の発掘と育成、他地域との連携、道南メディアの構築と運営に力を入れていきたいと考えています。
- やさいバスの三浦さんのお話に関して、ローカルとつながり、海外のスタートアップの方とビジネスをしていきたいと思っているので、連携していきたいです。HOKKAIDO INNOVATION WEEKには、ぜひ自分も関わりたいです。ezorockの草野さんとは、八雲でお会いしたことがあります。来年大きめのイベントを八雲で企画しており、大学生を集めたいと考えているので、後ほど連絡させてください。中西さんに関しては、以前に道南フェスティバルでお会いしました。札幌で一度楽しいイベントをしたいと思っています。



ウ 一般社団法人ドット道東 代表理事 中西 拓郎 氏

- 学校卒業後は、地元の北見を離れて関東で働いていました。そんな中で、地元の情報は地元から離れるとなかなか伝わってこないと感じていました。地元を離れた方を対象とした情報発信をしたいと思い、2019年に一般社団法人ドット道東を設立しました。道東に点在している町や人の架け橋を作りたいと考えており、それぞれのまちの文化やアイデンティティを壊さずにつながる相利共生を目指しています。
- これまでの活動として、クラウドファンディングを活用して、道東のアンオ

フィシャルガイドブックを作成しました。読者からは、「道東に帰りたい」、「道東に移住したい」という反響を頂きました。また、道東の求人 Web メディアも作成しており、面白い仕事、スペシャルな求人を取り扱っています。47 件の募集で 49 名の採用に成功しています。

- これまで活動していく中で、道東の仲間がたくさんできました。今後は、それを循環させていきたいと考えています。そういった想いで、新しい取組として、道東ヤングの「やりたい！」をつくるコミュニティ「DOTO-NET」を立ち上げました。
- パネリストの方々の取組について、存じてはいましたが、直接お話を聞くと解像度が高まると改めて感じました。また直接お会いして色々とお話したいです。関係人口の文脈では、隣の町、隣のエリアの人が自分の町に年に何回も来てくれるのが良いかなと考えています。それが地域の域内循環につながり、地域に再投資が生まれることを期待しています。



エ やさいバス北海道協議会 事務局長 三浦 世子 氏

- やさいバス北海道は、北海道コカ・コーラボトリング株式会社が事務局を運営する事業で、北海道コカ・コーラのグループ会社で地域物流を担当する幸楽輸送株式会社のトラックをバスに見立て、北海道の生産者の野菜を小売店や飲食店に共同配送するビジネスです。この事業は、北海道の生産者の幸せを、物流をもって解決します。生産者の手取りを多くすることがコンセプトで、売上の約 85% が生産者へ還元されます。なぜ、北海道コカ・コーラが実施しているかというと、理念との合致、輸送網の保有、小売店・飲食店とのネットワークがあるからです。
- 事業の具体的な内容は、農業用倉庫、商業施設、郵便局など、雨風をしのげて人や野菜が集まりやすい場所をバス停とし、それぞれの地域の生産者がバス停に野菜を置き、やさいバスがその野菜を回収し、購買者が指定するバス停へ発送します。この共同配送により、配送に係る CO2 の削減、地域コミュニティの醸成を図っています。
- 事業を続けていくうちに、新たな展開も生まれ、「空飛ぶやさいプロジェクト」として、FDA、ANA、JAL と連携し、朝採れの野菜を道外に輸送するプロジェクトも行っています。
- 現在は、産学官の連携組織の一員としてスタートアップのグローバルビジネスカンファレンスである HOKKAIDO INNOVATION WEEK にて、アグリ・フ

ード、宇宙産業、GX などスタートアップ企業が集まるイベントにも関わらせていただき、今後は、女性農家のビジネスでの活躍を推進していきたいと考えています。

- 他のパネリストの方の取組を伺い、地域で密な活動をされており、興味深く思いました。海外の企業誘致をする場合、地域の方と一緒に活動をする場があると、新しいビジネスが生まれると思います。ビジネスが盛んになっていない場所は、海外からも道外からも人は集まらないため、そのインフラを整え、最初はディスカッションから、ビジネスが根付いていく場所を作りたいです。

